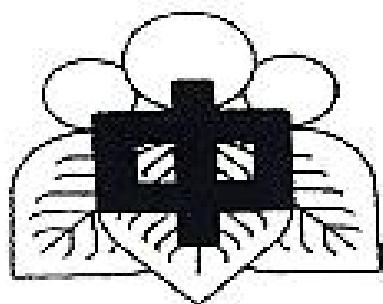


平成 30 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」



大阪市立大桐中学校

平成 31 年 3 月 14 日

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- (1) 学期毎に実施したいじめのアンケートにもとづき、教育相談の取り組みを行った結果、平成 29 年度はいじめ認知件数 8 件について、全てを解消することができた。
- (2) 暴力行為の発生件数は、平成 28 年度の 6 件に対して平成 29 年度は 7 件と微増した。
- (3) 不登校生徒数は、平成 28 年度 24 人に対して平成 29 年度は 33 人と 9 名増加した。
- (4) 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」について、肯定的に回答する生徒の割合が平成 28 年度より 5 ポイント下回り 78.6% となった。
- (6) 全国学力・学習状況調査における「学校のきまり、規則を守っている」について肯定的に回答する生徒の割合は 94.5% であった。
- (7) ICT 機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を推進した。その結果、75% の教員が授業に ICT 機器を使用し、生徒の主体的な活動が増えたことにより、興味関心が高まるという成果がみられた。また UTP 校となったことにより、環境面においてプロジェクタ一天井設置工事をすべての普通教室で完了した。
- (8) 外部テストにおいて、3 年生は、市平均点レベルであったが、1 年生と 2 年生は、市平均レベルを複数の教科で下回った。
- (9) 平成 29 年度から学力 UP コラボレーター等による放課後学習会を、目標(10 回以上)を大きく上回る 67 回開催することができた。
- (10) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が全国平均値と比較し、男子 -5.32 点、女子 -3.16 点であった。男子は 9 種目すべて、女子は 8 種目において全国平均値と比較し低い結果となった。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- (1) 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100% にする。
- (2) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合について 95% 以上を維持する。
- (3) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- (4) 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 90% 以上にする。
- (5) 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 85% 以上にする。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- (1) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間より少ない」と答える生徒の割合を、平成 28 年度 (43.9%) より 5 ポイント以上減少させる。
- (2) 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2 時間以上」と回答する生徒の割合を、平成 28 年度 (44.5%) より 10 ポイント以上減少させる。
- (3) 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点において、男女ともに全国平均値を上まわる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- (1) 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- (2) 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 92% 以上にする。
- (3) 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- (4) 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- (1) 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 85% 以上にする。
- (2) 平成 30 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 87% 以上にする。
- (3) 平成 30 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 83% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- (1) 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (2) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上減少させる。
- (3) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上増加させる。
- (4) 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- (5) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、男子平均40点、女子平均48点を上回る。

学校園の年度目標

- (1) 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間より少ない」と答える生徒の割合を、40%以下にする。
- (2) 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2時間以上」と回答する生徒の割合を、平成29年度(36.6%)より減少させる。
- (3) 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各種目の平均値において男女ともに8種目中2種目以上で全国平均値を上まわる。

3 本年度の自己評価結果の総括

二つの最重要目標「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」の年度目標7項目に対して4項目で目標を達成することができた。また「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」では年度目標8項目に対して、目標を達成できたのは1項目のみであった。

昨年度と同様に、学校のルールを守ることに関しては、アンケート結果からも極めて高い規範意識が根付いており高く評価できる。しかし学力向上の面では、外部テストの結果から、基礎学力の定着に課題を残した。組織的な学力向上の取り組みとして「教員の授業力向上の研究」をテーマに課題解決を図っていく。

一方、不登校生に関しては目標を達成することができた。しかし、依然不登校生の数は少なくない状況であり、個々の課題克服へ向けて「生徒理解・教育支援シート」の活用などを通して学校全体で不登校生の減少に引き続き取り組んでいく。

全国体力・運動能力、運動習慣調査における実技の結果について、目標を達成することができなかった。体力づくりアクションプランの見直しを行い、効果的なアクションプランの策定を学校全体で行っていく。

大阪市立大桐中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標	
(1) 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。	C
(2) 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 92%以上にする。	A
(3) 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度（2人）より減少させる。	C
(4) 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度（8人）より減少させる。	B
学校園の年度目標	C
(1) 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのない学校づくりを行う。	
指標	C
・いじめアンケートを年 3 回以上、教育相談を年 2 回以上実施し、認知したいじめについて 95%以上解消する。	
取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 教育目標「人にやさしい学校づくりに努める」「個性のちがいを認め思いやりの心を育てる」の達成のため、生徒情報に関する連絡・報告・相談の徹底を図る。	B
指標	
・いじめ、不登校、支援生徒対策委員会を年 10 回以上開催する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート等におけるいじめの認知件数は、21 件であり、2 件については解消しておらず、現在解消へ向けて取り組んでいる。（解消率 90.5%） ・毎月の職員会議後に「いじめ、不登校、支援生徒対策委員会」を 11 回開催し、全教職員で情報共有を行い、生活指導に役立てている。 ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた割合は 95.2%で目標値を 3.2 ポイント上回った。 ・暴力行為を複数回行った加害生徒数は 3 人であった。 	

- ・新たに不登校になった生徒は7人であった。
- ・全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」の項目が廃止されたため、1月に校内調査を実施した結果、肯定的に答える生徒の割合は82.7%であり、目標値を2.3ポイント下回った。

次年度への改善点

- ・いじめ未解消のものについては、解消へ向けて進んでいる状況である。今後もいじめのない学校づくりを最優先で取り組む。
- ・「いじめ、不登校、支援生徒対策委員会」において、情報共有に加えて、課題改善へ向けての提案なども積極的に行っていく。

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校園の年度目標 (2) 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を87%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 本校の伝統行事である体育大会における組体操での怪我や事故の未然防止を徹底する。練習および当日での十分な補助、マットを敷く等の安全対策を確実に行う。	B
指標 ・体育大会の取り組みが始まる前に教職員全員を対象にした安全対策研修を行う。 ・9月の保健室来室者数(要手当者)を昨年度より20%以上減らす。(目標値207人以下)	B
取組内容② 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 部活動での怪我や事故の未然防止に取り組む。	B
指標 ・部活動顧問会を年2回以上開催し、大阪市部活動方針～プレイヤーズファースト～を徹底し、安全対策について協議する。 ・部活動中の事故災害を20%減らす。(目標値40人以下)	B
取組内容③ 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 修学旅行・一泊移住において安全を第一に万全の態勢で臨む。	B
指標 ・修学旅行では「発達障がいサポーター」、一泊移住では「看護師」も付添うことで、安全安心の体制を充実させる。 ・泊行事において事故災害を0にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・保護者アンケートにおける「学校は、安全・安心な学校づくりによく努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合は94.3%で目標値を7.3ポイント上回った。 ・9月の保健室来室者数は、205人(外科83人、内科122人)で目標を達成した。	

- ・部活動中の事故災害は 40 人であり、目標を達成した。
- ・泊行事における事故災害は 0 件あった。

次年度への改善点

- ・9月の保健室来室者数について、目標達成したが、来室理由・時間帯・怪我の程度・起こった場所等詳細な分析を行い、未然防止策を深め、さらに減少させていく。
- ・部活動中の事故災害について、顧問および部活動指導員が未然防止への意識を高めるため、具体的数値をもとに研修を次年度実施する。

年度目標	達成状況
<p style="color: red; font-weight: bold;">【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>（3）平成 30 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 83%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 文化鑑賞会・芸術鑑賞において保護者・地域の方々が様々な形で参加できるよう工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、PTA 作品の出品数を平成 29 年度より増加させる。（目標値 14 作品以上） ・文化鑑賞会・芸術鑑賞において保護者・地域の方の来校者数を平成 29 年度より増加させる。（目標値 142 人以上） 	A
<p>取組内容②【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 大桐中学校のことがわかる冊子「大中ナビ」を教職員・保護者・生徒・地域の方々とで制作することを通して大桐中学校の伝統を受け継いでいく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大中ナビ」研修会を年 1 回、大中ナビの会を年 2 回開催する。 ・教職員、保護者、生徒、地域の四者が関わり制作する。 	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおける「学校は、家庭・地域に開かれた取り組みをよく行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合は 89.9% で目標値を 6.9 ポイント上回った。 ・文化鑑賞会・芸術鑑賞において、保護者・地域の方の来校者数は 154 人であり目標値を上回った。 ・地域の方の作品数も、昨年の倍増の 29 作品だった。 ・4 月に予定していた大中ナビ研修会はできなかつたが、11 月 13 日に大中ナビの会を行い、今後の方向性について話し合いができた。
<p>次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も開かれた学校づくりを行っていく。

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標	
(1) 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	C
(2) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。	C
(3) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。	C
(4) 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度(85.5%)より増加させる。	C
学校園の年度目標	
(1) 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間より少ない」と答える生徒の割合を、40%以下にする。	B
(2) 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目について、「2時間以上」と回答する生徒の割合を、平成29年度(36.6%)より減少させる。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を積極的に行い、学習への意欲を高めさせる。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン教室を整備し、「主体的・対話的で深い学び」の中心拠点として活用していく。 ・ロボット教材を活用し「プログラミング的思考」の育成を図り「主体的・対話的で深い学び」を深化させていく。 ・校内研究授業においてICT機器を活用した授業を全教員が1回以上行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」「ICT機器」に関する研修会を年2回以上行う。 	C

取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

学力UPコラボレーター、学びサポーター、特別支援教育サポーター、発達障がいサポーター、元気アップコーディネーターを活用しての学力向上支援を図る。

指標

- ・学力UPコラボレーター・学びサポーター等による放課後学習会を120回以上開催する。
- ・元気アップ事業として学生ボランティアによる夏季休業中の3年生学習会を4日以上開催する。
- ・サポーター等による授業への入り込みによる学習支援を合計500時間以上行う。

B

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

自宅学習、質問教室等自発的な学習活動の啓発に取り組む。

指標

- ・生徒会による「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」にかかる啓発活動を様々な形で年3回以上行う。
- ・保護者に対して「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」へ向けての呼びかけを年2回以上行う。

D

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、3年生は90.6から86.1となり4.5ポイント下がり、2年生は90.3から89.1となり1.2ポイント下がり、目標を達成できなかった。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、3年生は24.5%から28.7%となり4.2ポイント上がり、2年生は26.8%から27.1%となり0.3ポイント上がり、目標を達成できなかった。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、3年生は17.5%から16.1%となり1.4ポイント下がり目標を達成できなかった。2年生は17.6%から20.0%となり2.4ポイント上がり目標を達成できた。
- ・パソコン教室の整備については、校長経営戦略支援予算の追加予算が配当されなかつたが、校費を捻出し老朽化した床とカーテンを新しくした。
- ・校長経営戦略支援予算を活用し、ロボット2種類各40セットを購入し、技術科の授業で活用した。
- ・ICT機器を活用した授業行った教員は、92.6%であった。
- ・タブレット使用回数は、2月末時点で312回であり、昨年度比4.5倍であった。
- ・7月19日に「ICT研修」、11月6日に「主体的・対話的で深い学び」に関する校内研修を行った。
- ・放課後学習会を2月末までに171回開催した。しかし参加者がいた日が66回、参加延べ人数が240人であった。
- ・元気アップ事業として学生ボランティアによる3年生学習会を8月下旬に4日間開催した。
- ・サポーターの学習支援は、2月末時点で500時間を超え、目標を達成した。
- ・「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」啓発活動については、生徒会新聞や放課後学習会新聞で触れたが十分ではない。
- ・保護者に対して「自宅学習時間の増加」「スマホ等の利用時間の短縮」へ向けての呼びかけを学校独自でできなかった。

- ・校内調査において「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」について、肯定的に回答する生徒の割合は 82.5% であり、目標値を 3 ポイント下回った。
- ・全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間より少ない」と答える生徒の割合は 31.2% で目標を達成した。
- ・全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の項目が廃止されたため、1 月に校内調査を実施した結果、「2 時間以上」と回答する生徒の割合は 54.3% であり目標値を 17.7 ポイント下回った。

次年度への改善点

- ・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業実践の増加へ向け、さらに研修を深める。
- ・放課後学習会について、対象者・場所・方法・やり方について見直し、効果的な活用に取り組む。
- ・サポーター等による授業の入り込み拡大のため、人材確保を引き続き継続して行う。

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標	
(5) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、男子平均 40 点、女子平均 48 点を上回る。	C
学校園の年度目標	
(3) 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各種目の平均値において男女ともに 8 種目中 2 種目以上で全国平均値を上まわる。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健体育科の授業で基礎体力向上に努める。	
指標 ・保健体育科の授業において準備運動と合わせて補強運動を毎時間行っていく。 ・マット運動、陸上、柔道において、タブレットを 10 回以上活用し、フォームチェック等を行うことで効果的な授業を展開していく。	B
取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健体育科の授業のみではなく教育活動全般にわたり体力向上の推進を図る。	
指標 ・体育大会、球技大会、マラソン大会、水泳大会等の体育的行事の見学者を 5 %以下にする。 ・部活動部長会を年 3 回以上行い、生徒の自発的活動のもと体力向上へ向けての啓発活動を行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、男子平均値 37.75 点、女子平均値 46.52 点であり、目標値をそれぞれ 0.25 点、1.48 点下回った。 ・保健体育の授業において 12 時間タブレットを使用し、フォームチェックなど効果的な授業展開を行った。 ・体育大会、球技大会での見学者は、1 %未満であったが、水泳大会では、およそ 6 %であった。 ・部活動部長会を 6 回開催し、生徒の自発的活動の運営が行われている。 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における各種目の平均値において男女ともに 8 種目中 1 種目においてのみ全国平均値を上まわり、目標達成できなかった。	
次年度への改善点	
・水泳大会での見学者の減少へ向けて、普段より魅力ある水泳の授業展開を研究する。 ・部活動部長会での生徒の自発的活動が活性化されている。今後も続けていく。	